

**第3回秋田市新庁舎建設基本設計業務委託に関する
公募型プロポーザル審査委員会
公開ヒアリング質疑要旨**

開催の日時 平成23年7月8日（金）午後1時～
開催の場所 秋田拠点センターアルヴェ2階多目的ホール
委員数 7名

- 1 市長あいさつ
- 2 審査委員紹介
- 3 審査委員長あいさつ
- 4 公開ヒアリングに関する留意事項について
- 5 公開ヒアリング（以下要旨のとおり）

A	社	<p>【A社】 (説明)</p>
委	員	<p>【質疑】</p>
長		<p>各案に共通した質問である。一つ目は、市民サービスセンターと執務空間との関係で、市民サービスセンターが西側の2階から6階まで縦に連なっている。高齢者を考えるともう少しコンパクトに階数を限定できないのか。どうして2階から6階に設けたのか、お聞きしたい。</p> <p>また、津波は500年か1000年に1回ということであるが、河川の浸水は可能性が高いと思う。免震装置が浸水した場合はどう考えるのか。また、浸水に対する防護策等を考えているのか。</p>
A	社	<p>サービスセンターについては、平面的にフロアで分けるという考え方もあるが、中央市民サービスセンターの各居室は目的性が高く、執務室と各階で連携することで協働のメリットがあると考えた。吹き抜けに面した会議室は両者が使うことも可能であり、市民参加という面ではワンフロアに固めるよりも各階に分散した方が各部署との連携が深まると考えた。</p> <p>免震構造は基礎免震と1階免震があるが、今回は1階免震を提案した。基礎免震にすると完全に浸水・冠水してしまうため、1階の中間層免震により冠水を防ぐということである。またGLを若干上げているため、川の浸水等は十分回避できると考えている。</p> <p>津波に関しては、地下1階の基礎免震にすると建物にかなりの浮力が生じてしまう。免震ゴムに浮力が発生したときに水平力が作用すると破断することも考えられるため、極力浮力を回避するために免震を1階にした。</p> <p>今回の提案は既存庁舎の地下を使うが、現庁舎の1階レベルは雪対策等でGLより約1mほど高く設定されている。さらにその上に今回の解体ガラ等を敷き詰めて整備することで、1階のレベルが約1.5m上がるた</p>

め、現在のハザードマップを確認した限りでは、川の氾濫等による浸水の対策としては施されていると認識している。

委員 この案の特徴は、立体駐車場を設けず、160台分の地下駐車場を作るという点である。私は評価するが、一方で、立体駐車場の方が冬などはアクセスがしやすいという利点もある。平面駐車場、地下駐車場そして立体駐車場のメリットなどについて説明があれば伺いたい。

A社 私たちの提案は、現庁舎の地下駐車場で約数十台、地上で280台、合わせて3百数十台の計画である。立体駐車場も検討したが、やはりユニバーサルデザインを考えると、青空駐車で平面的な方が使い勝手が良く、さらに工事費等も安くなるというメリットがある。確かに積雪時は立体駐車場のメリットもあるが、立体にしてもスロープなどは屋根を付けるか融雪をしないといけないためこのような提案をしたものである。

また、基本構想では敷地の北側の真ん中に立体駐車場が計画されていたが、この地区の景観や敷地の東側に建物が寄ってしまう弊害の解決策を考えた場合、現庁舎が敷地の中心にあるという市民の記憶や精神性などを含めて中心性を考えると、ここに立体駐車場を設置するのはそぐわないと考え、資産を活用することも含めて地下を有効に使い、地上はできるだけシンプルに整備した方が良いと考えたものである。

また、竿燈まつりの時などは、駐車場を多目的な広場として臨機応変に使うこともできると考えている。

委員 自然環境の配慮の仕方について2点伺いたい。広場を西側に大きく開き、竿燈広場に面して可動的な出入口を作る提案であるが、その出入口を閉じているときは遠回りしてアクセスしなければならないように感じる。竿燈広場に面した出入口の使い方はどう考えているのか。

市民の座の屋根部分にアモルファス太陽光発電がのるということだが、そこはフラットなのか、傾斜があるのか。雪の問題で大事な部分なので説明をお願いします。

A社 西風の出入口は、基本的に外部環境が良好な時にオープンにして気持ちよく広場とつながるような形で利用することや、イベントの際に使うことを考えて提案したものである。風が強いときは少し南側に廻って入らなければいけない図面になっている。それは山王大通り側からのアクセスのポイントも含めて位置を考えたものであるが、北側に寄せるなど今後、多少の調整はできると考えている。

屋上のトップライトに関しては、寒冷地ではフラットはあり得ず、勾配を付ける考えである。

委員 市民サービスセンターと執務室の空間の分け方が気になっている。サービスセンターは土日や夜間の利用があるため、市民が執務室に入らないためのセキュリティはどのように考えているのか。

A	社	各階平面図の青い点線部分がセキュリティラインであり、閉庁時や休日はその西側だけが使えるように、プランニングに配慮している。
B	社	【B社】 (説明)
委 員 長		【質疑】 共通の質問であるが、市民サービスセンターを5階の低層の方に集約し、8階の窓口や執務機能と区別している。他の案では市民と業務の融通性を持たせており、このように明確に分けた案は少ないが、なぜ、このように明確に分けたのか基本的な考え方を伺いたい。 また、津波対策として免震を3階にしているが、この点については審査委員会の中でも議論があった。大津波は数百年から千年に一度ということであるが、地震はたびたび発生するので、免震が効かない低層階は大丈夫なのかということの2点について伺いたい。
B	社	基本的には庁舎機能とサービスセンターは一つの空間として考えている。サービスセンターと窓口は通り土間で空間的につながっている。庁舎の窓口部分と市民ホール側のセキュリティの考え方が変わってくると考えており、通り土間を介して緩やかにつながりながらセキュリティはここで切り分けることを想定している。サービスセンターは庁舎に用がない方も使うので、しっかり管理することを想定し、通り土間をうまく市民協働のスペースとして活用しながら緩やかにつなげるという考え方である。 千年から千何百年に一度の津波であるが、市庁舎はいざという時に市民を守る必要がある。免震は津波に対しては弱点になるため、3階の中間免震としたものである。普段市民が使う窓口部門は免震よりも下の階であるが、津波の力はかなり強いため、それに対する安全性を担保する構造フレームになっており、地震に対しても安全である。揺れに対しても制震装置等を加えることで十分安全で揺れの少ない構造体を作れると考えている。
委 員		自動車の動線や歩行者の動線についての説明があったが、図では真ん中にロータリーがありバスも入れるようになっている。市役所を目的地にしている場合は利便性が高いということになるが、交通の円滑性では錯綜することが想定され、若干問題があるように思えるがどうか。
B	社	全てのバスを引き込むという計画ではなく、山王大通り側にもバス停が必要であると考えている。ただし、今後、デマンドの交通システムを秋田市で考えるのであれば、より利便性を高める意味でもこのようなバス停を用意しておくことは必要だと考えており、庇の高さも最初から考

慮しスムーズに玄関に導けるように考えたものである。

委員 図の山王大通り側の緑がある場所にはバス停があるということか。

B社 広場を抜けていけるルートを自然に作り、完全に遮蔽するのではなく、オープンに使いながらというイメージである。

委員 最初に外観を見たときに、この建物は5階と8階の分棟の建物だと思ったが、構造を見ると一体的な感じがする。構造的にはどのような感じになっているのか。

B社 低層部と高層部は一体であり、途中で吹き抜け等があるが、免震を作ることによって一体化できると考えている。

委員長 通り土間はこれだけ高く細長い空間で、かなりコンパクトなスペースになっているので使い勝手が心配である。
また、庁舎自体が非常にコンパクトに感じるが、基本的な方針などあればお伺いしたい。

B社 基本的に通り土間の空間は光と空気が抜けると同時に市民協働の場として利用することを想定しており、視線が抜けるイメージである。巨大なアトリウム的な空間を設けるのではなく、スペースにふさわしい大きさの吹き抜けとしたものである。また、エレベーターやエスカレーターが入っているので、日常的には連絡通路的なニュアンスにもなっている。

委員長 建物全体は非常にコンパクトになっているが、かなり意識したものか。

B社 極力大きな建物にならないように、無駄なスペースは省きながらコンパクトにまとめることを考えたものである。

委員 通り土間とこみせ庇との空間のつながりが良く分からないので、補足の説明をしていただきたい。

B社 こみせ庇は外部の空間から建物へ導くためのサイン効果のある庇状の空間であり、そこからストレートに通り土間に導く空間構成になっている。動線がスムーズに視覚化されることも一つの効果として考えている。

C社 【C社】
(説明)

委員長 【質疑】
最初に共通の質問である。3階のサービスセンター部分は中庭を挟ん

で議会もある。並んでいてもシャットアウトする形なのか。また、交流ゾーンには何かあるのか。

津波は500年や1000年に一度の確率ということであるが、免震がこの位置であれば河川の洪水による浸水のおそれがあると思うがどう考えているのか。メンテナンス上、浸水があっても大丈夫ということであればそれも含めてお答えいただきたい。

C 社 今回の提案は市民・行政・議会が三位一体となったゾーニングがしっかりできるようにしている。1・2階に窓口を配置するのは基本的な市庁舎の機能であり、市民ゾーンの多目的ホールを窓口のロビーに面して一部使えるようにしている。2階にある窓口部門と何か共通する部分として子育て支援のサービスセンター機能を設けている。3階は調理や市民サークルで使えるようにしてあり、東側には議会を配置した。このように1・2・3階に行政と市民と議会を配置し、リングシャッター等でセキュリティを保てるようにしている。

交流の庭は基本的には内部空間だが、3階は一部光庭になっている。内部のブリッジで渡れるようにしているが、それを閉じることもできる。それぞれが独立して機能すると共に、時間外でもセキュリティで閉じられて外から入ることもできるし、避難もできるプランにしている。

免震については、免震装置と躯体の間があいているため、どうしても水が入ってくる。そのときに外周の地中梁を逆梁にすることを考えている。湧水槽のピットの中の湧水ポンプを充実させ非常用発電機も屋上に設置しているので、いきなりすぐに濡れるということはない。地中梁の外周部分を少し上げることにより、水が入ってきたときに外周部で水を防ぐとともに、基礎自体を少し上げることで浸かり方を遅らせるようにしている。

また、排水ポンプは複数台設置し、1台を起動しても間に合わない場合は2台、3台、4台と動かすことを考えている。複数台を複数箇所に自家発電装置に接続して設置することで対応できると考えている。

委 員 空調については唯一オフィス空間を含めて輻射式を採用している。他はユニバーサルで、配置変更に対応して床吹き出しという提案がほとんどである。輻射式のメリットは何か。

C 社 通常は空調の送る空気の温度は15度から16度に冷やす必要があるが、輻射式では表面温度を22度から23度に冷やすだけで通常の執務室の環境が保てるため、省エネになる。今回の提案では建築の部材も蓄熱効果のあるものを提案しているため、さらに省エネになると考えている。

床面全体を輻射式にするため、レイアウト変更には問題なく対応できる。むしろ全面が冷暖房の面になっているので、床吹き出し口の位置をいちいち変えることなく、どのようなレイアウトにも対応できると考えている。床に水を通すのではなく、フリーアクセスの床材に空気を吹き

付けて床全体を冷やす方式であり、実績も多く、かなり省エネになるため、寒い地域にはこれが効果的であると考えている。

委員 免震構造なのに、天井材や家具の転倒防止が必要だということだが、それは今回の地震で免震構造でもそのような事例があったということに配慮したものか。それとも、計算上、可能性があるということなのか

C 社 Eーディフェンスで神戸などの地震を再現すると、固定していない什器や備品などが動きだし材料が落ちてくるということがある。今回の大地震で病院などでは変形量が30cmくらいだったと聞いている。継続時間が長いと同様のことが起きやすくなり、長周期での影響は懸念されるため配慮したものである。

D 社 **【D社】**
(説明)

委員長 **【質疑】**
共通の質問である。他の提案にはなかったが、外周までアイランド形式で窓口が使えるようになっているが、少し余裕がないように感じるが、その考え方について伺いたい。

免震でない点が、他の提案と違っている。その根拠が能代市の15mの津波高を根拠にしているのはなぜか。例えば秋田であれば川を遡る可能性があるため、能代市の例をそのまま利用するのではなく、それ以外の方法もあったと思うがどうか。

D 社 アイランド型ということで市民と職員のスペースの接点を長くしたことがポイントである。実際のゾーニングとしては、市民生活部のフロントの近くが、最も市民課の利用度が高いエリアと想定している。裏側の部分は、プライベート性の高い相談用のブースを配置するため、通路に接する部分を増やした方が良く考え、福祉課や市民課の近くに動線が入り込むという企画をしたものである。

津波の想定の方はなかなか難しいが、今回は15mの津波を想定して提案した。今回の東日本大震災では10mから15m位の津波がきていたが、リアス式海岸のように特別な地形でない秋田市の場合10mから最大で15m位と想定したものである。能代のデータを使った理由は日本海中部地震は能代沖が震源であった。秋田沖は地震の空白域になっているので、直近で発生した能代沖の規模の地震が起きたことを想定して高さを想定したものである。また、地形を考えると川の遡上も考えられるので、波が海に正対する直行方向からぶつかるだけでなく、川を遡上して回り込むことも考えて、コアの形態を一方向ではなくて両方向にバランス良く配置することを考えたものである。今回の地震でも橋梁などが浮力を受けて波に流されるという現象が起きており、津波に対して

は弱点があると考え、下部で津波にも耐えられる耐震、上部では柔らかく地震を受け流す制震というコンビネーションで構造計画をしたものである。

委員 他提案との違って中庭を提案しているが、秋田の気候では冬が不安である。特に中庭にこだわった理由があれば伺いたい。

D社 最初は大きな吹き抜けのアトリウム案を考えたが、省エネの視点と暖房効率も含めて容積を減らすために中庭を計画したものである。

また、中間期に多少でも風が流れる快適性が必要だと考え、オフィスが外気に接する面積を増やしたものである。

また、積雪地の場合、明るさが制限される傾向があるためアトリウム型のトップライトは作りにくい。実際に曇った天気が多い地域性であるため、平面を大きくすることで内部に明るさを取ることを考えたものである。

委員 今回の地震では制震構造の建物で家具の転倒がかなり報告されているため、市役所としての機能維持を考えると制震構造の提案はどうかと感じるがどうか。

D社 最近の制震部材は性能が良くなっており、鋼材系のダンパーだと加速度的に落ち切れないので、粘性系の比較的効率の良いものを考えている。また、下部構造が津波加重を考えると地震よりも上回る可能性がある。それに対しての耐震要素を入れる1・2階が非常に硬くなるので、相対的な硬さの差を利用して制震効果を上げることを考えている。完全に免震より落とせるとは言えないが、十分な制震効果があると判断している。

委員 山王で気になるのが西からの風や西日である。この提案は西側に巨大な壁ができる印象があるが、西側の執務室あるいは西からの風に対してどのような対策があるのか考えを伺いたい。

D社 西からの日射に関しては、縦のルーバー上の外壁を形成し、回り込んでくる夏期の嫌らしい西日をカットするという構成である。西側の風に対しては基準階においては開口部を制限し、約50%の開口率を設定しているので抑えきれると考えている

【E社】
(説明)

E社

【質疑】

委員長 共通の質問である。サービスセンターの考え方について、この案は特徴的で1・2階の窓口と5階以上の執務室が分離されているが、執務室

が連続的にあった方が便利だという考え方もある。また、機械室を4階に配置するのは奇異な感じがするので説明をお願いします。

免震については川が氾濫して冠水しても大丈夫なのか。

E 社 配置については、今回の課題の中で最も大きな課題だと捉えている。1・2階の多くの人がある窓口空間に近い3・4階に吹き抜けを通してサービスセンターをおくことで、賑やかな市民活動を折り重ねることを考えた。1階と2階に窓口を集約し、相当な長さのカウンターを確保し、そこから見上げると市民の活動が見えるという構成である。低層で市民生活のサポートを印象づける空間を作りたいと考えたものである。

機械室の4階配置については、地下は防災上の観点、水没の観点から避けた。上にするとエネルギーインフラを引っ張り上げる必要がある。シャフトの計画や建設コストの観点からも、4階はいろんな場所に動力を送る最短距離になる。非常に大きな平面であるため、4階の北側に寄せることで搬入ルートも無理なく確保できるものである。かつ、機械室の下は被災時の防災拠点であるため、その位置に機械室を配置したものである。

免震については、津波に対する安全性を確保するため全体の重量バランスを考えて敷地を1m上げて津波がきても大丈夫な位置に免震層を配置したものである。免震部材は水を受けても大丈夫なものとは違うものがある。今回の地震でも地震や津波で冠水したところにヒアリングなどを行い、オイルダンパーなどを使うと後々問題があるので、冠水しても清掃や補修で元に戻る耐久性の高い履歴ダンパーを使うことで、庁舎を支持しようと考えている。

委 員 雪冷房の提案は非常におもしろい取り組みである。県南で実際に雪冷房システムを導入しているが、秋田市と県南では雪の降り方がだいぶ違う。冷房に対する10%の負荷軽減ということであるが、積雪が少ない場合の蓄雪の手法について考え方をお聞きしたい。

E 社 蓄雪の方法としては、上から落とし込むことも考えたが、雪が少ないときは雪を運ぶ必要がある。基本的には敷地内の雪を入れることを考えているが、それだけで足りない場合は除雪した雪を車で運び込むというルートを設定し地下を計画したものである。

具体的な容量としては千㎡位のピットで高さが2.5mで2,500トン位のスペースを使用している。雪冷房は自然エネルギー利用であるため、気候や降り方によって変わるものであるため、全てを雪冷房に頼るということではなく、通常のエネルギーを使った冷房システムもあるが、雪を集められるときには最大限利用するという考え方である。ちなみに冷房最大負荷900冷凍トンの100冷凍トンを雪冷房でまかなえるような容量を考えている。

委 員 先ほどの委員長の問題への回答では、バランスを考えるとサービスセ

ンターが4階にあっても良いという答えであったが、やはり4階にあると不便であるという意見もあるので、それに対して不便ではないという理由があればお話しいただきたい。

E 社 現在の文化会館を見てきたが、現状は文化サークルなどの人たちが集まるかなり目的性の高い空間であると感じた。そのような人にとっては公開され、存在感を感じつつも、ある程度奥に入った部屋で活動したいという部分もあると思う。ただ遠ざけたくはないが練習するような部屋の存在というものをきちんと作りたいということで4階にバランスさせたものである。

【F社】

F 社 (説明)

【質疑】

委員長 共通の質問である。基本的には2階と3階にサービスセンターを集約しているように受け取れるが、4階階以上にも市民の間というのを設けているので、その使い勝手や使い分けなどについて説明をお願いします。

絵では議会はガラスの屋根になっているが、セキュリティの考え方はどうか。

免震を2階にするという判断であるが、2階以下に関しては、大きな地震が頻発しているところでは不利ではないかという考え方もあるがどう考えているのか。

F 社 市民スペースであるが、1階に生活利便施設を入れ、そのほかに情報コーナーやギャラリーなど情報発信に絡むようなものを設け、2階と3階に公民館的な機能を集約している。そして上の階は、基本構想では中層階にも市民スペースという記述があったが、今後まちづくりを市民の皆さんを入れて考える際に、例えば都市計画課の近くにもそのようなスペースがあり、そこはコピーやパソコンも使える環境のスペースを考えている。

議場の大空間の上は、実際には太陽光集熱パネルを設けるものであり、屋根をガラスにするということではない。全体のイメージを明確にするためにこのような絵を描いたものである。

免震については、1階については耐震を設けて地震に対しては十分安全になっている。免震を2階にしたのは、今回の震災の状況を見ると免震装置が水をかぶったりして細かい微粒子の砂などが地下ピットにあると、余震が起きたときに砂が入って悪さをするのではないかと考えて、今回は2階にしたものである。1階については通常の大地震に対しては十分な耐力を持つように設計している。

委員長 各階の平面図を見ると、執務室は奥行きがあって窓からの距離がある。

空間の可変性を発生させる良い意味もあるのだろうが、一方で自然採光の面で少し不安がある。また、市民の間の吹き抜け空間も狭い印象があるので、光を自然に取り込むということについて考え方を伺いたい。

F 社 奥行きが深いので両面採光ができるように吹き抜けを設けたものである。西面についても所々抜けを作って光が入るように考えている。この吹き抜けの大きさは東西方向が14m、南北が25mで約350㎡あり、かなりのスペースとなっている。7階建てなので、夏は床に直接光が届く広さである。冬については割と曇天や雨が多いが全てをガラスにするのではなく、ある程度壁を入れることによって反射を利用することも考えている。過去の経験を踏まえて、この高さの建物であれば採光については十分であると考えている

委 員 待合スペースは輻射式の暖房器具が置いているようだが、待合スペースの暖房の考え方を伺いたい。

F 社 暖房は空気を使うと非常に効率が悪くなるので、輻射暖房の直接暖房プラス床暖房の考え方である。

委 員 1階の市民の間が杉のスクリーンで分かれており、プライバシーを守ることや執務に集中できるという利点もあろうが、せっかくの広い空間が狭く感じる。また、外の空間で、かなり広々としたケヤキの空間の使い方の考え方を伺いたい。

F 社 1階の面積は4,500㎡位ある。この広さは市民にとってはなじみのない大空間である。以前同様の広さの庁舎を設計した際に、やはり空間が広すぎて奥の方まで見通せるということが必ずしも良いとは思っていない。むしろ、過去の経験を踏まえても、杉のスクリーンによって市民がいるスペースをほどよい大きさにした方が良いと考えている。今回はサービスセンターという土日や夜間も使う施設が入っているので、セキュリティ上、ここでシャッターを下ろすことを想定している。電気が消えた真っ暗な空間は寂しい感じになるので、昼間も夜も同じような表情でほどよい大きさの空間を作ることを提案したものである。

G 社 **【G社】**
(説明)

委 員 長 **【質疑】**
共通の質問である。1階をピロティにし、2階に主な機能を集約したメリットを強調していたが、逆に2階に行かないと主要なサービスを受けられないというデメリットもある。それをどのように解決しようとしているのか伺いたい。

1階に津波に強いピロティを設け、免震装置は地下階に設けているが、津波が来たときに大丈夫なのか、また、水害に対してオイルダンパーは大丈夫なのかについて考えを伺いたい。

また、ライフサイクルコストの節減額は49億円、7%となっているが、あまり大きくないという印象を受けるがどうか。

G 社 サービスセンターを1階に置かないことのデメリットについてであるが、今回重視したのは災害対策として2階に主たる機能を上げること、そして、外構部分における豊かな緑道やお祭り広場との一体的な空間利用がしっかりするということである。2階に上がらないとサービスを受けられないということになるが、昨今の災害を踏まえて市民の心情を考えたものであり、2階に上がりやすい大きな階段やエスカレーターを整備した。2階に雁木のモールや木立のモールとして外構を取り囲んだ空間を作っているが、2階部分でも屋外のスペースと一体利用できれば2階に設けてもデメリットにならないと考えている。

免震についてであるが、今回提案した9階建ての庁舎の免震に係る力と津波の力を比較した上で津波の力に耐える免震の構造にしてある。オイルダンパーについては防水型のものを採用することを考えている

ランニングコストとイニシャルコストを合わせて49億円の減額としているが、大きなものを試算したものであり、今後は細かい手法までを検討しながら省エネ効果を積み上げて減額効果をさらに大きくしていきたいと考えている。

委 員 冬場は西風が強いため、1階のピロティを強風が通り抜ける心配があるが、何か配慮はしているのか。

G 社 1階部分の津波に強いフレームに防風スクリーンを設置することや、施設の配置によっても防風対策を施せると考えている。設計段階では風のシミュレーションをしっかり行うことを考えており、特に雪だまりにならないよう、風が抜けないように考えるつもりである。

委 員 2階のデッキスペースは上にガラスの屋根をかけるのか、その場合どのような効果があるのか。

G 社 ガラスだけでなく、上階にも木の二重格子を提案しているが、それらを併用しながら西日対策を施すことを考えている。下の木立のモールは雨の日も雪の日も積極的にオープンに使ってもらいたいと考えており、太陽パネルを組み込んだガラスを設けることを考えている。

委 員 最上階の高さはどれくらいか。

G 社 全体の建物の高さは地上42.5mである。

委員 2階のデッキはとても広いが、これほどのように使うと効果が出るのか。

G社 通常は1階レベルで活発になる市民の活動を積極的に2階に上げることを考えており、2階の内部ホールの物産コーナーや情報コーナーが、晴れた日などは表にはみ出してくるような使い方もできる。また、3階や4階の市民活動などが2階のデッキ部分ににじみ出てくることを期待したいと捉えている。また、広場を取り囲んだところに雁木のモールがあるので、お祭りの時には観客席として使えるという効果もある。

(ヒアリング終了)

6 審査委員長あいさつ

7 閉会